

## 平成30年仕事始め式 市長訓示

平成30年1月4日 午前9時

市福祉健康センター・多目的ホール

新年明けましておめでとうございます。

職員の皆さんにはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、皆さんには昨年も、「元気な自立都市 越前」の創造に向け、それぞれの部署で市民福祉の向上や市民との協働のまちづくりにご尽力をいただき、誠にありがとうございました。

昨年10月に執行された市長選挙において、多くの市民の皆様のご温かいご支持を賜り、その責任の重さとともに、市行政に対する大きな期待を感じたところであり、4期目の市政運営においては、北陸新幹線南越駅（仮称）の周辺整備として広域高次都市機能の誘導、第3期市中心市街地活性化基本計画の推進、市工芸の里構想の推進、吉野瀬川ダムの着工等の治水対策などに全力で取り組んでまいり決意です。

さて、昨年は本市が進める「半世紀に一度のまちづくり」が着実に進展した1年となりました。

まず、本年8月末の完成を目指して、昨年4月に今立総合支所が入居する複合施設の起工式を行うとともに、南越中学校の全校生徒による投票の結果、同施設の愛称を「あいぱーく今立」と決定しました。

本庁舎も、平成31年10月末の完成を目指して、昨年8月に起工式を行いました。

また、本年9月に開会する「福井しあわせ元気国体」のフェンシング競技の会場となる武生中央公園総合体育館と、本市出身で日本を代表する絵本作家かこさとし氏に監修いただいた「だるまちゃん広場」が昨年8月に完成し、たけふ菊人形の期間中はもとより、連日、市内外から多くの来場者が訪れています。

北陸新幹線の南越駅（仮称）の整備も、昨年11月に鉄道・運輸機構から駅舎デザインに関して3つの案の提示を受け、市の推薦案を本年2月末に回答する予定です。

平成35年春の開業に向け、昨年3月に改定した市都市計画マスタープラン等に基づき、同駅周辺に広域高次都市機能の誘導を図っていくとともに、県内外からお越しになる方に、本市が誇る伝統工芸やコウノトリが舞う豊かな自然環境を強くアピールできるよう、本年も市工芸の里構想やコウノトリが舞う里づくりの推進を図ってまいります。

さて、去年は県内第一位の「モノづくり都市」である本市の強みが確実に発揮できた1年でもありました。

昨年10月に公表された、平成27年の本市の製造品出荷額等は5,627億円で、平成26年と比べて18.8%も増加し、県内に占める割合は25.0%から27.6%に増大しました。

市内企業の雇用増大を受け、平成27年11月に策定した市総合戦略に基づき、企業と連携を図りながら人口減少対策・定住化促進対策を推進した結果、本市の人口は昨年1月1日から12月1日までに151人増え、合併後初めて増加しました。

本年も、市内企業の事業拡張と雇用の増大がさらに見込めることから、一層の取組みを進めてまいります。

このほか、第7期市高齢者福祉保健計画・介護保険事業計画や市健康21計画（第3次）の素案を取りまとめ、現在はパブリック・コメントを実施するなど、去年は各分野において、着実な事業の推進を図ることができた1年でありました。

これも偏に、市議会や市民の皆様のご支援、並びに職員の皆様のご尽力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

本年は、5月に紙祖神 岡太神社・大瀧神社の千三百年

大祭、9月には「福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会」の開幕、12月には本市出身で日本を代表する絵本画家いわさきちひろさんの生誕百年と、本市の歴史や伝統・文化などを力強く県内外に発信する、重要な1年となります。

職員の皆さんには、本市が進める「半世紀に一度のまちづくり」や県内第一位の「モノづくり都市」の強みを大きなチャンスと捉え、本市の将来に素晴らしい夢を描きながら、本年もそれぞれの部署で職務に精励し、「現地現場主義」の実践を通して市民と協働のまちづくりを推進し、「元気な自立都市 越前」の創造にご尽力いただくことをお願いいたします。

さて、12月11日に新幹線「のぞみ34号」の車内で、JR西日本の乗務員や保守担当者が、博多駅を発車した直後から異音や振動、異臭など計30件もの異変に気付きながら、列車を止めることなく3時間も運行を続け、新大阪駅でJR東海に「走行に支障はなし」との引き継ぎを行いました。

一方、JR東海は異変を受け、名古屋駅で床下点検を実施したところ、台車に14センチもの亀裂を発見し、あと3センチで鋼材が破断して脱線など重大な事故につなが

る恐れがあった、と報じられています。

運輸安全委員会が新幹線で初めて重大インシデントに認定し、調査が行われていますが、両社の企業風土や安全文化にどのような違いがあったのでしょうか。

大企業に在りがちな「依存体質」や「縦割り」の弊害が指摘されていますが、行政にも当てはまる重要な課題です。

そこで、本市においては本年も、前例にとらわれることなく、従来の思考や手法を絶えず見直していくため、現場を預かる若手職員や女性職員が積極的な提案を行うとともに、その提案が活かされる、柔軟で明るい職場を作っていくことで、異変を早く察知し、危険を回避する風土を庁内に築いていきたいと思えます。

また、「着眼大局、着手小局」を心掛け、全職員が20年先、30年先の越前市を見据える大局観を持つ一方で、目の前の課題に丁寧に取り組み、当たり前を確実に実践する風土を、引き続き庁内に築いていきたいと考えています。

結びに、本年も皆さんが心身ともに健康で、市政の発展と市民福祉の向上のために大いに活躍されることを祈念し、「平成30年 仕事始め式」の訓示といたします。

本年も、よろしく申し上げます。